新 世界の学校　＊フランス・パリ

高校数学 必修か選択か

学力低下の中 方針に揺れ

数学の授業で導関数を学ぶ生徒たち（6月8日、パリ市内で）

6月上旬、パリにある公立のモーリス・ラベル高校では、2年生の数学の授業が行われていた。教室のホワイトボードには、人口の増減を示す2次関数の放物線が描かれている。数学教員のルーシー・ピュレンさん(33)は、増減率がわかる接線の方程式を示し、「このように『微分』したものを導関数と呼びます」と説明した。

経済予測や建物の強度計算などに使われる「微分と積分」は高校数学の難関とされ、日本では選択科目に含まれる。フランスでも、この授業は選択科目だ。授業を受けていたのは6人。ピュレンさんは問題を解く生徒一人一人を回って、解答にたどり着けるよう助言した。「選択科目だから少数でもやる気がある子たちが集まる」と目を細める。

アニエス・ベニカンさん(17)は「3年生になっても数学は学び続けたい」と意気込み、別の女子生徒(17)は「数学を学んでおけば、進学や就職の可能性が広がる」と意義を語った。

フランスは数学のノーベル賞ともいわれる「フィールズ賞」の受賞者を多く輩出しており、学問として数学を尊重する傾向は日本より強い。高校数学では、好きな生徒に専門的な内容を教えるべきか、それとも全体の底上げを図るため基礎を充実させるべきか、議論が盛んだ。

カリキュラムも頻繁に変更される。1年生の数学の基礎は必修だが、2年生の発展的な数学は2019年度に一度廃止され、22年度に復活。そして、9月に始まる新年度からは、必修化されると決まっている。

実は、フランス全体の数学の学力レベルは低下傾向にあり、中学生の数学能力は、経済協力開発機構（OECD）や欧州連合（EU）加盟国の平均を下回る。統計やデータ処理など数学が必要とされる場面は増えており、必修化は「数学教育は産業基盤に直結する」といった財界などの声が強まったことが背景にある。メディアでは「数学嫌いな子が余計に数学を嫌いになるのでは」との懸念も報じられ、議論は尽きない。

ピュレンさんによると、選択科目は教科書が用意されておらず、教材や演習問題は「全部自分で準備していて先生の負担が大きい」と話す。一方で、必修化も一度に教える生徒の数が増えるため、「教室に数学が嫌いな子が何人もいると、全員に丁寧に教えるのは難しい」と頭を抱える。

高校数学の正解は、一つではないようだ。

（パリ支局　梁田真樹子、写真も）

＊学年表記は日本に準じています。

フランスで9月から実施される数学教育の強化策

小学校	・4年間で全ての教員が数学研修を受講
中学校	・各校に「数学クラブ」を創設 ・達成レベルを測る全国テストを導入
高校	・2年生の数学を必修化 ・1年生で数学になじむための授業を新設

数学教育強化 小中でも

フランスでは新年度を迎える9月から、高校以外でも、数学の強化策が実施される予定だ。

小学校では、4年以内に全ての教員が数学教育の研修を受けるほか、達成度をチェックするテストの回数を増やすことなどが求められる。

中学校では、少人数授業が導入され、各校には「数学クラブ」の設置が奨励される。

ただ、強化策を実行するには教員の数が不足している。仏教育省は400人程度の増員が必要と見積もるが、教員組合は「見通しが甘い」などとして反発している。

学ぶ育む

No.2744　教育ルネサンス　［先生］第3部　学校で働く　4

支え合い 子育てと両立

大阪府交野（かたの）市立私市（きさいち）小学校教諭

河野（かわの）順子さん　45

先生の世代交代が進んでいる。文部科学省調査によると、公立小学校教員のうち20～30歳代が占める割合は、2007年度の31・7%から、19年度には45・0%に上昇した。21年度に育休を取った公立小中高校の先生は2万人を超えた。先生たちの子育てをどう支えるか。どの学校も直面する課題だ。

■子どもの目線で

「ママ先生」の朝は、時間との闘いだ。河野順子先生は午前5時過ぎに起床、家事をこなして、保育園に寄ってから学校へ。始業時間の午前8時半に職員室に駆け込む。毎日が全力だ。

21年秋に3人目の子どもとなる次女(1)を出産した。育休を取り今春から復帰し「支援学級」の担任を務める。

カーペット敷きの教室。河野先生は膝立ちでいる時間が長い。まっすぐに子どもと目線を合わせて、揺らぐ気持ちや機嫌をしっかりと受け止めたいからだ。間違わずに音読できた。ノートにきちんと書けた。小さな頑張りを見逃さずに褒める。

ママになって、仕事の制約が増えた。保育園の迎えのため、夕方には退勤する。我が子の体調次第で欠勤や早退することも多い。「朝起きて、学校に来る。そんな当たり前のすごさと大変さが分かった」。子どもたちを認めて、褒めることが増えたと感じる。

■苦い新人時代

地元・佐賀県の短大から京都府の4年制大学に編入した。4回目の挑戦で教員採用試験に合格し、03年に大阪府で先生になった。初めの頃は「自分がしっかり指導しないと」と肩に力が入りすぎていた。マラソン大会で気だるそうに歩いている子を「あんたら、ちゃんとしいや！」と一喝したら、返ってきたのは「はぁ？」の一言。「もしかしたら走れない理由があるのかも」と想像することもなく、いきなりしかりつけてしまった。子どもの心は閉ざされたままだった。

「私市ママ会」仲間の先生と職員室で談笑する河野先生（右）

なんとかしようと、ベテラン教員のクラスを見て、一人ひとりへの接し方を学んだ。子どもをひきつける授業をしようと、夜遅くまで学校に残り、教材を準備した。次第に「先生が担任で良かった」と言ってくれる子が増えていった。

先生になって10年。34歳で結婚し、1年半後に長女(9)を出産した。「学校で子どもたちといるといつも笑っていられる」から、育休後に職場復帰した。38歳の時には長男(6)を出産した。夫(44)の仕事は長期出張があり、実家は遠方。「ワンオペ育児」状態でも再び学校に戻った。

■激励と感謝と

同時期に復帰したママ先生は、自分も含めてなんと5人もいた。ライングループ「私市ママ会」を作った。学校の情報を共有したり、育児の悩みを打ち明け合ったり。「大丈夫！　お大事に」「夏休みまで踏ん張ろう」。励ましの言葉が飛び交った。

昼休みなどの時間に、書類を作成し、連絡帳に書き込む。早め、早めに仕事をこなす。頼みごとは苦手だったが、自然とフォローをお願いできるようになった。その分、翌日にはしっかりと感謝の気持ちを伝えるよう心掛けている。

「子育てをしてみて、保護者の悩みや気持ちをより考えるようになった。今は周囲にたくさん助けられている。将来は私も後輩のママ先生をサポートしたい」。そう決意している。

＊次回は7月4日に掲載予定です。

＊ご意見は 〒100・8055 読売新聞東京本社教育部（ファクス 03・3217・9908、メール kyouiku@yomiuri.com）へ。

投書

デジタル化 後戻りならぬ

無職　渡辺　喜彦　69
（横浜市）

マイナンバーカードを巡るトラブルが相次いでいるが、これをもってマイナカードを不要なものと考えるのは早計だ。日本はデジタル化が進まず、世界的に見ても行政や業務の効率化が遅れていると思う。デジタル化を前進させなければ将来が危ういのは明らかではないか。

トラブルは性急な導入を優先させたことに起因するのだろう。不具合はその都度修正しながら、信頼性の高いシステムに改善していくことが重要だ。後戻りしてはならない。

生き生き実習生 次女に刺激

主婦　白井友美子　45
（東京都日野市）

次女が通う高校に3週間ほど教育実習生が来ていました。娘は実習生の授業を受けたり、大学生活や勉強について色々と話を聞いたりしたそうです。

保健室の先生を目指している娘は最近、その仕事が本当に自分に向いているのか悩みを感じているようでした。

そんな中、迷いながらも夢に向かい努力している実習生の生き生きとした姿を見て、「今まで不安だったけれど大学で勉強するのが楽しそうだと初めて思えた」と話していました。

娘の高校の先輩でもある実習生の話は、娘の琴線に触れたのでしょう。将来が明るく開けたようでした。

保険証廃止 身勝手だ

無職　岩波　康裕　76
（東京都杉並区）

マイナンバーカードの取得はそもそも任意だったはずで、この大前提から考えれば、取得を望まない国民が一定数いるはずです。取得を徹底させるために政府が現行の保険証を廃止し、保険証を取り上げることは身勝手だと思います。

マイナカードを巡るトラブルが相次いで報じられています。今後も新たなトラブルが予見され、不安や不満を抱えている人もいることでしょう。そうした人たちへの配慮がないのは悲しいことだと思います。

気流

題字・角元正燦
イラスト・熊沢厚子

雨天用帽子

広島カルタ 平和願う

非常勤教員　為国　里美　66
（東京都立川市）

趣味でカルタを集めており、800種類ほど所有している。最近、「ひろしま郷土かるた」を手に入れた。開けてみると、取り札の力強い絵に心が引かれた。描き手は四国五郎さん。初めて聞いた名前だった。

その翌日、本紙書評面（4日）で偶然、「反戦平和の詩画人　四國五郎」という本の書評があった。四国さんは20歳で出征し、シベリアに抑留された。弟の被爆死という、つらい経験も重ねた。それでも「祈るだけでは平和は来ない」と、連合国軍総司令部（GHQ）の占領下から絵画と詩で反戦を訴えた。バンクシーのように街頭でゲリラ的に反戦の絵を掲げ、弾圧に抗（あらが）ったという。

四国さんの絵札一枚一枚を見て、平和に思いをはせた。皆が心穏やかに幸せを感じられる世の中であってほしいと願う。

電動スケーター 事故防ごう

アルバイト　谷口　新二　74
（岐阜県可児市）

7月1日に改正道路交通法が施行され、一定の条件を満たす電動キックスケーターは、これまでの原付きバイク扱いから自転車に近いルールに変わるが、私は不安を覚えている。

誰でも簡単に乗れるだけに、危険と隣り合わせではないか。急な飛び出しや方向転換、急停止などが原因で、他の車両や歩行者との衝突事故が多発するのではないかと心配だ。

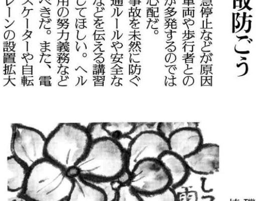
行政は事故を未然に防ぐため、交通ルールや安全な運転方法などを伝える講習会を開催してほしい。ヘルメット着用の努力義務なども広報すべきだ。また、電動キックスケーターや自転車の専用レーンの設置拡大も検討すべきだろう。

「いつか使うかも」処分

主婦　鈴木　悦子　72
（福島市）

「ここ2、3年使っていない物はこれから先も使用しないんだから」と子どもたちが帰省する度に言われていた。終活を考える年齢になっても「いつか使うかも」となかなか処分できないでいたが、最近、再利用できる物は再利用し、使用しない物は思いきって処分することにした。

まずは亡き義母の衣類から片付けることにし、義母の着物の生地で新たにチュニックやベストを作った。夏休みに帰省した子どもたちが何と言ってくれるか、今から楽しみだ。



磯田　泰子　74
埼玉県秩父市

よみうり時事川柳

●佐藤憲一選　2023 6.29

料理人料理されぬか固唾飲む　流山　福パン
プーチンが背中にも目が欲しくなる　東京　後藤克好
台風の目を細め見る予報官　東京　鈴江淡白
両親に「詫びろ！」も含む逮捕状　千葉　小園逸郎
もう少しマシナカードが欲しくなり　東京　大久坊
秀 あの人は夏の第九の鐘鳴らす　龍ケ崎　山崎倫明

＊

プリゴジン台風収まったが次が発生しそうなそら模様。

投稿先

句のテーマは何？　読売新聞オンラインで公開中。

＜時事川柳の投稿＞〒103・8601日本橋郵便局留　読売新聞東京本社「時事川柳」係まで。読売新聞オンラインの「よみうり時事川柳への投稿」からも投稿できます。テーマを付記。住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記。筆名可。読売新聞の電子メディアに掲載することがあります。二重投稿はお断りします。

時代の証言者

大会優勝 歌手デビュー

国境なき歌を求めて

加藤（かとう）　登紀子（ときこ）　⑩

恋に夢中でろくに大学にも通っていない私を見かねたのか、父がシャンソンコンクール出場を提案してきました。フランスの名歌手、エディット・ピアフに傾倒していたこともあり、挑戦を決めました。芸能関係の仕事をしていた父に、コンクールを企画したシャンソン歌手の石井好子さんを紹介してもらいました。さらに歌のレッスンを受けるとともに、フランス語の勉強も始めました。やると決めたら一直線という性格は、このあたりでエンジンがかかってきたようです。

選んだのは、ピアフの「メア・キュルパ」。恋愛に身を焦がす女の情念を描いた曲で、1964年の第1回日本アマチュア・シャンソンコンクールに出場。結果は4位でした。終了後、ある審査員から「君はまだ赤ちゃんの顔をしている。ピアフを歌っても男心は動かない」と厳しい意見。それでも、「来年またいらっしゃい」と言われ、再挑戦を決意しました。

2度目の挑戦でシャンソンコンクールに優勝

大学3年生になっていたのですが、ゼミ以外は学校に行かず、歌の練習、読書、恋人との時間……。時折、銀座のシャンソンの殿堂「銀巴里」に出演させてもらっていました。世間は東京五輪に浮き立つ中、高等遊民のような優雅な日々を送っていました。

≪64年10月10日、東京五輪が開幕。15日にわたり、93か国5152人の選手が参加して20競技163種目で熱戦が繰り広げられた。日本は役員82人を含む437人が参加し、過去最高となる金メダル16個を獲得した≫

そして65年のコンクール。前年の教訓を生かし、新しいフレンチポップの「ジョナタン・エ・マリ」というかわいらしい曲を選びました。これなら審査員の皆さんもよく知らないだろうから、原曲と比較されないはずという計算もありました。そして見事優勝することができました。

副賞は約10日間のヨーロッパ旅行。憧れのパリではシャンソンの大御所、リュシエンヌ・ボワイエが経営するライブ・レストランで歌わせてもらうという機会にも恵まれました。シャンソニエでは、ギターを持って歌う若手が多く、「自分の曲をギター弾いて歌うのがシャンソンだ」と感化され、帰国したらさっそくギターを習い始めました。

秋には、石井好子事務所に所属し、歌手デビューも決まりました。ただ、私にどんな曲を歌わせるか、制作陣は悩んだようです。私自身もシャンソンの枠に縛られたくないという気持ちがあり、何でも受けようと決心しました。約10曲も録音し、ムード歌謡風の「誰も誰も知らない」で66年4月にデビューしました。

人気商売を始めるのにこの題名では。その不安は当たり、不発でした。第2弾は「赤い風船」。当時CM音楽の世界で頭角を現していた若き小林亜星さんが作曲したロシア民謡調の曲でした。（歌手）

©読売新聞社 無断転載、複製を禁止します。